京都帝國大學新聞

紀元二千六百年 奉祝記念式

紀元二千六百年の佳き年を迎へて本學に於ては十日午前十時諸上大ホールにこの年御國大學に學ぶ感激を思ひ日本晴の蒼穹の下を集ひ來つた職員學生は祝賀式を擧行した式次第次の如し

一、宮城遙拜
一、國歌齊唱
一、紀元二千六百年記元節ニ當リ賜リタル勅語捧讀

なほ十六日には本學として奉祝式を擧行本部講堂にて全學生参列し羽田總長の式辭、學生代表の祝辭等あり、最後に聖壽の萬歳を三唱して式を終り次で正門東側芝生に總長は記念植樹をなし二千六百年の大いなる年を祝福した

記念植樹

ついで式後正門東芝生に記念樹を植ゑ羽田總長から鍬入れがあり、續いて石田、松本、野多、成瀬、堀場、谷口、蓮河の各學部長の鍬入れが行はれてこゝに目出度く貴心樹のしとやかな品格を輝かせてこの曠古の聖典を祝福した

勅語

茲ニ紀元二千六百年ニ膺リ百僚衆庶相會シ之レカ慶祝ノ典ヲ擧ケ以テ肇國ノ精神ヲ昂揚セントスル朕深ク焉レヲ嘉尚ス今ヤ世局ノ激變ハ實ニ國運隆替ノ由リテ以テ判カルル所ナリ爾臣民其レ克ク嚮ニ降タシシ宣諭ノ趣旨ヲ體シ我カ惟神ノ大道ヲ中外ニ顯揚シ以テ人類ノ福祉ト萬邦ノ協和トニ寄與スルアランコトヲ期セヨ

公開講演會賑ふ

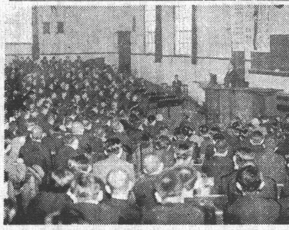
紀元二千六百年の佳き年を祝し、此の光輝ある年を記念すべく…

全體的國家觀

法・渡邊宗太郎教授

極微の世界

理・湯川秀樹教授



本學紀元奉祝講演會

記念式式辭

羽田亨

式典の佳き日に 文化勳章受賞者決る

高木・西田・川合・佐々木の四氏

授文化勳章（五十音順）

高木貞治
西田幾太郎
川合芳三郎
佐々木隆興

西田幾太郎氏　本學名譽教授
佐々木隆興氏　元本學教授
高木貞治氏
川合玉堂氏

多彩な學内解放の一日

教室から教室へ・眼を瞠る

水に浮く鑛物 六十一萬ボルトの人工雷

—工學部の巻—

偲ぶ肇國の精神 人氣を呼んだ遺物

幼兒を背負ふた母性も數多

地味にたが熱心に

經濟思想史一目瞭然

節米協力

半月のメモ

文學部長に 成瀬無極教授

水上瀧太郎全集

一代の良識と毅然たる精神 典雅高邁なる人間完成の文學

水上瀧太郎不世出の器量を抱き病みて遽かに歿するや其人を慕ひ悼む者洵に多し。本全集は即ち此人の全作品を輯錄し、小說、戲曲、詩歌而して「貝殼追放」に加ふるに著者が晩年大會社の首腦として東西席暖かならざる間に草したる出張日記其他を以てし、以て今代此偉材ありしを世に傳へんとするものなり。作家水上瀧太郎は今新に之を論ぜずと雖も美を愛する情の深くして濃かなると惡を憎む心の勁くして烈しきとは共に擧げて其特色となすべく、作品の種類甚だ多しと雖も作品の背後常に作家あり、人をして彼を通じて此を想ひ、其人を敬慕して、斷簡零墨をも惜しむにいたらしむるは、蓋し前記の特色の人を惹くこと强きに因るならん。水上瀧太郎居常祖國を思ひ、父母に至孝、人と交はつて其一諾は實に鐵石の如くなりき。本全集收むる所主に文藝作品なりと雖も亦之を座右にすべき士人修養の書といふも敢へて過ぎたりとすべからず。其刊行を慶ぶべきもの獨り遺友と後輩とのみにあらざるべきは吾人の私かに期して疑はざるところなり。

【締切十一月末日　内容見本進呈】

愈々配本開始

第一回配本 大阪・大阪の宿

「大阪」と「大阪の宿」とは、主人公・三田をはじめ、田原、鱗その他共通の登場人物多く、且時間的にもはつきりした繫がりさへもつてゐるが、首尾、點綴の構想關然するところなき本格小說で、兩者各獨立獨歩してゐる。この一聯ではあるが二つの中篇は、共に、主人公の被害、受難を動機としてゐる。漱石の「坊ちやん」など軌を一つにする正邪の倒錯によつて、終始一貫、讀者の義憤が挑發される。

豫約募集　全十二卷

1 小說　2 小說　3 小說　4 小說　5 小說　6 隨筆
7 小說　8 戲曲　9 貝殼追放　10 貝殼追放　11 貝殼追放　12 出張日記・其他

申込略規
方法　豫約申込者にのみ頒ちます。
刊行　十一月より毎月一冊宛刊行。
體裁　四六判上製函入…
申込　申込金一圓…
會費　毎月拂…
送料　內地…

岩波書店
東京・神田・一ツ橋　振替東京七四四一六

岩波書店新刊

青年と教養

第一高等學校長 安倍能成著

四六判上製四一〇頁　定價二・三〇　送料二二

…一般讀書人に親しまれて來たが、この新著に於ては、更にその特質が教育…新な日本文化の指導者たるべき若い世代の人々に對するやさしくして滋味…恰も著者が第一高等學校長たる重責を荷つて新…偶然の符合ではないであらう。…若い人々にとつて味讀すべき書である。

東京市神田區一ツ橋　振替東京二六二四〇

航空工學便覽

日本航空學會編纂

菊半截判上製八九二頁　定價四・五〇　送料二一

本書は現代に於ける航空機、航空工業の重要性に鑑み、廣く關係者の利便に資…多數專門家の協力を得、今や三箇年に…航空無線、航空氣象、航法、航空醫學・心理、航空法規の二十三部門に亘り…更に索引を附して使用に便ならしめてゐる。

華やかな會談外交展開

向後英一

世界情報

日獨伊三國同盟の成立をモメントとして樞軸對英國の戰爭が急速な展開を示すかも知れぬといふ觀測は一應御破算となり、ヒツトラー總統とムッソリーニ首相のブレンナー會談の内容は例によつて發表されなかつたがこの會談以後對英戰爭の長期戰化への印象がいよいよ濃厚となつて來た ▼……ブレンナー會談以後ヒツトラー總統は自らフランス占領地帶に出向いてペタン首席、ラヴアール副首席と會談、更にスペインの總統たるフランコ將軍と相次いで會談し、こゝに華かな會談外交が展開された。この二つの重要會談がブレンナー會談に次いで行はれたゞめに各方面から重大意義を附せられたが、これら二つの會談内容については一切發表されず、種々の觀測が行はれたにもかゝはらず現在に至るも具體的の結果は現はれてをらず、臆測の範圍を出てゐない。フランスとの會談については（一）獨佛の本格的和平交渉の準備（二）樞軸の對英戰爭遂行上フランスは參戰に至らざる範圍内で協力することの二つが協議され、スペインとの間には（一）ジブラルタルを攻略するためにドイツ軍のスペイン領通過容認（二）フランス領モロッコをスペインに與へることによつてスペインの獨伊協力を誘引する等の事柄が協議されたといはれてゐる。これに對してペタン首席はヒツトラー總統との會談終了後〃フランスは飽くまでドイツを支持する〃旨を聲明したが、一方未だ内亂の疲弊から恢復し切つてをらず、殊に現在相當に經濟的に惱んでゐるスペインがいよいよ樞軸側について參戰の態度を明らかにすれば英國は直ちにスペインに對する封鎖を强行すべく、これはスペインにとつては致命的であるからフランコ將軍はドイツとの交渉には愼重な討議が必要だといふのが英國側の觀測である ▲……ジブラルタル攻略の價値について一部の軍事專門家は、すでに現在でもイタリヤ潛水艦隊はしばしばジブラルタルを通過して大西洋に出てゐるし、戰術的に見てもジブラルタルの英國要塞の海峽支配は對岸のアフリカからの砲火をもつて十分に制壓出來るから早急にこれを攻略する必要はないと見てゐるやうだ ▲……伊希戰爭によつて戰火は依然バルカンに波及し本舞臺の英本土攻擊が慢性的樣相を呈してゐるために戰爭の中心が東地中海に移つた觀がある、イタリヤ軍は新にソッドゥ陸軍次官を總司令としてアドリヤ海岸のエピルス戰線、中央のヤニナ戰線およびコリッツァ戰線の三方面から攻擊前進を開始してゐるが、何分にも山嶽重疊の困難な地形である上に氣候もいよいよ嚴しく、相當に困難な戰爭らしい、英國のギリシヤ派遣軍は漸次に增强されてゐる模樣である ▲……鳴物入りで世界注視のうちに行はれた米國大統領選擧はルーズヴエルトの三選となつた、ルーズヴエルトなら參戰ウイルキーなら不參戰といつた公式的な觀測も行はれたが、米國は軍擴にスピードをかけてゐるにもかゝはらず現在の軍備では積極的に參戰するにはまだまだ不十分であるから結局從來通り武器、軍需品による對英援助の强化を内容とする非交戰態度を繼續することにならう、米國の對英飛行機輸送は最近いよいよ拍車がかけられ、世界一と自讚する爆擊照準器の對英讓渡さへ云々されるに至つてゐる ▼……さて伊希戰爭は戰況そのものゝ發展如何にかゝはらず、ダーダネルス海峽を扼し、バルカン協商によつてギリシヤと結ばれるトルコ、黑海に死活權益を有するソ聯と最……

經濟再編成と轉失業問題

森喜一

經濟再編成の意味するところ

經濟再編成と中小商工業者の轉失業

（以下二十二行削除）

米穀事情を正視せよ

佐藤淺五郎

經濟時評

風俗時評

堀川直義

「根源的主體性の哲學」
——西谷啓治氏の大作——

長澤信壽

「日本地政學宣言」小牧實繁氏

米倉二郎

「神話」——高坂正顯氏

肥後和男

「農業經營學の基礎理論」
——柏祐賢氏の勞作——

桑原正信

日本評論社新刊

東京京橋三ノ四　振替東京一六番

政治經濟學の問題

高岡高商教授　大熊信行著

菊判上製六五〇頁　定價六・〇〇　送料・二三

從來の經濟學の問題が絶えず理論と政策の問題を中心に展開されて來たことをみれば、今日の政治經濟學の提唱が從來の純粹理論に對立するものとして發生したのも當然の歸結であらう。併乍ら今日の學問的情況は既にかゝる對立物としての自覺から一歩進んで、純粹理論をその中に包攝すべき巨大なる體系問題にまで展開されて來たのである。然らば政治經濟學の體系的構造はいかなる問題を孕み、またその如何なる點に於て純粹理論と接續するのであらうか？　本書は十數年來配分理論の純化確立に捧げられた著者の學問的成果のかゝる方向への結實を示すものであり、經濟學の將來をトする劃期的勞作と稱しえよう。

英國經濟の衰頽過程

滿鐵調査部　長守善著

菊判上製三六〇頁　定價三・〇〇　送料・一四

ヨーロッパの戰火は日を逐うて激しく、歐亞に跨る新たな陣列が世界の變容を告げてゐるとき、英帝國は未曾有の難局に震撼しつゝある。今や老朽イギリスの非運は紛れもないものとされ、その沒落は時の問題とされるに至つたのであるが、彼國の昨日の制覇と今日の頽勢の由つて來る根因を追跡し、受身ながらも飽くまで粘り强く戰ひつゞけつゝある彼の國力の根柢を掘下げるための眞摯な檢討が十分になされてゐるとはいひ難い。著者はこの要請に應じ、こゝに英國經濟の發展と衰頽の過程を取上げ、豐富な資料を驅使して詳細に分析し、英國の明日の運命と我が對英策の動向とに關して示唆多き勞作を提供してゐる。

マーシアル經濟學選集

東京商大教授　杉本榮一編

菊判上製三六八頁　定價三・〇〇　送料・一四

マーシアルを中心とする新古典派理論の研究が經濟學の現代的課題を解明する途であり、預絲するところ學界の正統的方向と目さるゝ今日、本書の刊行も亦大なる意義があらう。

解說…………杉本榮一　經濟學の現狀…………板垣與一譯
外國貿易の純粹理論…………杉本榮一譯　經濟學者の舊世代と新世代…山田雄三譯
國内價値の純粹理論…………中山伊知郎譯　經濟學に於ける力學的類同性と生物學的類同性…………山田雄三譯
ジエヴオンス氏の經濟學綱理…高島善哉譯
ミル氏の價値理論…………高島善哉譯　經濟騎士道の社會的可能性…金巻賢字譯

改訂 財政學入門

東京商大教授　井藤半彌著

四六判上製三三二頁　定價二・〇〇　送料・一四

戰時經濟の財政部門に及ぼす影響は頗る複雜多岐に亙り、これを簡潔に綱羅し理論的に而も實際について敍述することは至難の事に屬するが、著者は既に昭和十二年秋我國が戰時財政に第一步を踏み出した時に本書の舊版を著してこの難業を成就された。爾來今日に至るまで無二の入門書として廣く喧傳されて來たが、事變の長期化と新たなる國際情勢に直面して戰時財政の根本的建直しと同時に、本書も亦全般的改訂を迫られ、茲に再び讀者に見ゆるに至つた。戰時財政の深化とともに一層の精彩を放つ本書の再現は、新たなる財政計畫の視野に連る理論的解明のうちに實際的知識を讀者自身のものたらしめるであらう。

改正會社法 附有限會社法

法學博士　西島彌太郎著

菊判上製六二〇頁　定價四・八〇　送料・二三

改正商法實施せられて十箇月、殊に今回改正の主要點であつた會社法に關しては、その改正の解說が一應なし盡されてゐる現在、學究の任務は、更に進んでこの改正の内容を理論的に究明し學術的に體系づけることでなければならない。本書はかゝる觀點より、改正會社法の内容を極めて詳細に講述すると共に適宜新舊規定を比較對照しつゝ、獨・英・米・佛・伊・瑞等の法制を比較法制史的に參照することによつてその各條文に包含するところの意義・内容を檢討し、更に豐富なる判例及び内外學說の引用を以てその解釋を裏づけてゐる。改正會社法及び有限會社法に關する最も眞摯なる研究として推奬する所以である。

支那民族性の研究

早稻田大學　松岡壽八著

四六判上製三五六頁　定價二・〇〇　送料・一四

世界史の巨大なスフインクス的存在である支那民族の民族性の究明は、當面喫緊の問題となつてをり、東亞新秩序形成の必須の要件と見らるゝに至つた。五千年の昔、渺たる部族的存在にすぎなかつた集團が、幾多の周邊諸民族との接觸・交渉の裡に、今日の世界的な一大民族を構成した過程を、著者は豐富な史料を驅使して歷史的に展望し、まさに現代支那民族の複雜錯綜せる性格を的確に描出してゐる。かくして吾々は、今日この民族に對處すべき方途を、史眼に裏づけられた科學的觀點に立つて樹立しうるであらう。量的には誇りえないとしても、東亞の一大民族の性格解明の書としてひろく讀まるべきものである。

支那地理大系 自然環境篇

陸軍教授　渡邊光編

菊判上製五五二頁　定價五・〇〇　送料・二三

吾々が支那研究に際して先づ逢着する困難は、その社會・政治・經濟等の文化的諸形態を一義的に把へることにあるといへようが、このことは面積一千萬方粁を占むる支那の自然環境の然らしむる根本的特徵である。從つてその地形・氣候・河川湖沼・土壤及び民族・動植礦物の分布等あらゆる支那の自然的要因を先づ以て理解することの急務なるは勿論であるが、多くはその基本的資料を外國文獻にのみ仰ぐ狀態であつた。本書はかゝる中にあつて我國最初の權威ある綜合的研究といふべく、學界新鋭の意圖する記述地理學からの脱却と、他のあらゆる實踐科學への積極的連繫とは、特に本書の意義を大ならしめてゐる。

科學はドイツ語から！

一ヶ年完結・月刊講座・關口存男主幹

ドイツ語

第八號（十二月號）發賣中

內容の一部

（卷頭言）中學校と日英同盟…………關口存男
（文法講座）形容詞の三級…………荒木茂雄
（動詞講座）命令法…………末吉寛
（文章論講座）比較の表現…………小西長明
（文法講座）疑問詞と疑問文…………大野勇二
（讀本）イスラム…………末吉寛
（讀本）醫者…………大野勇二
（讀本）クリスマス所感…………小西長明
（科學とドイツ語）生物…………大野勇二
（人と思想）ヘルムホルツ…………荒木茂雄
「新體制」はドイツ語では何と云ふか？…………小西長明
校正の話…………關口存男
懸賞成績講評…………小西長明

定價四〇セン　〒・一セン　三ケ月一圓廿錢

既刊號殘部僅少・直接日光書院へ申込まれよ

祝日獨伊三國同盟

月刊講座　ドイツ語　前半年分合本出來!!

定價二圓六十錢　送料十四錢

希望者は直接日光書院へ申込まれよ

關口存男監修・獨逸語譯註叢書

初步の學力で讀めて　中級以上の實力をつける！

1. 小西長明譯註　グリム童話　茨姫　〇・七〇
2. 青木欽次譯註　童話　願掛け指環　〇・六〇
3. 小西長明譯註　科學論文　世の終り　〇・七〇
4. 大野勇二譯註　ユーモア短篇　蜜輸入者の話　〇・六〇
5. 小西長明譯註　グリム童話　幸運のハンス　〇・八〇
6. 荒木茂雄譯註　現代短篇小說　或る實驗　〇・六〇
7. 大野勇二譯註　文化論說　インテリとは何か？　〇・六〇
8. 末吉寛譯註　怪奇傳說　惡魔の接吻　〇・六〇
9. 獨逸語社譯註　日記體短篇　或る日記（近刊）

（送料各六セン）

基礎ドイツ語講話

四版　大野勇二先生著　一・八〇　〒〇・一〇

本書一冊でドイツ語の基礎は完全に諸君のものとなる　目下飛ぶが如き賣行を示しつゝある快著。

關口存男先生二大名著

再版　獨作文教程　四・八〇　〒・二三

再版　獨逸語學講話　四・五〇　〒・二三

Die Kultur 獨語文化

關口存男監修

十二月號發賣中

內容の一部

日獨伊同盟の反響…………關口存男註
殲滅戰…………大野勇二
日本からの珍客…………黑川武敏
獨逸へ呼びかく…………末吉寛
感覺界と實在界…………黑川武敏
學識と學者に就て…………荒木茂雄
（高級文法）
逸語句と冠飾句…………關口存男
（試問欄）大野勇二・黑川武敏

定價五〇セン　送料一セン

東京市神田區一ツ橋二　電話九段二一四五番　振替東京八三七三六番

日光書院

新東亞の經濟建設へ
東亞經濟研究所生る
初代所長は谷口教授

掉尾の收穫をめざす
文學部聯合諸大會
講演題目その他きまる

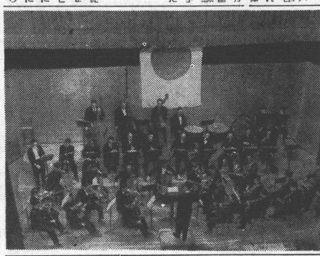
廣域經濟と東亞建設
經・谷口吉彦教授

財部教授を偲び
「記念文庫」を創設

空の神秘を
花山にさぐる

三校氏講筵
學藝部主催

藝術の秋を飾り
演奏會賑ふ



滿洲の農業開拓
農・橋本傳左衛門教授

金屬材料の疲勞
工・西原利夫教授

肇國と其の追念
文・西田直二郎教授

學振補助決定す
本學關係は十四件

小兒を結核より護れ
醫・服部峻治郎教授

官界への登龍門
明春法・經・工・農業の有資格者
十九名全部各省へ

合唱團
廿二日發表會

學徒部隊の
聯合演習

學友會改組への胎動
準備委員會開く

輝く三年連覇
府下庭球チーム戰

本學大勝
對阪大射擊定期戰

白水社新刊　及販賣　出版目錄送呈

アナトオル・フランス長篇小說全集
第一期　全九卷　內容見本・解說　送呈

第二卷　朝倉季雄譯
鳥料理レエヌ・ペドオク亭

第一卷　伊吹武彥譯　シルヴェストル・ボナールの罪

續刊　アナトオル・フランス短篇小說全集　全七卷完成

メーストル作　永井順譯
部屋をめぐつての隨想

ボナール著　大塚幸男・矢野常有共譯
友情論
コレット・ボドッシュ（少女の物語）

リルケ作　谷友幸譯
神樣の話

リルケ作　大山定一譯　マルテの手記
シュトルム短篇集　馬場久治譯

人形つかひ

チボー家の人々
第七卷　父の死　全十一卷

小說の美學　異常兒　審判　冬　石灰窯　東洋の幻　愛の風土　生まれた土地

學藝

アカデミヤの文學者達

プラトンのアカデミヤの昔の法燈を新にイタリヤの叡智に於て點じやうとするそこには……。しかも今ダヌンチオへのエレジーを

黒田正利

さきにイタリアの學士院のことと、それが創造さるべきイタリアのために持つ重要な意義とを見て終りに直接私に關係のある文學者を一瞥しやうとしたのであつたが、たゞ名前を擧げるだけに終つた。今その不備を補はうとする、最も多く語るべきことを有し、

」「舟」の小説に至る迄、いづれかイタリア人に愛國の魂と血と誇とを注ぎこまないで置かう。そして一九一一年以後にかける彼の行動が、それら作品が教へる精神を裏附ける。今のイタリアはまだダンヌンチオと競ふ作家を持たぬ。ダンヌンチオの「ペスカラ小品」の特色を想はせる者は、アント

ければならぬ。不可思議な超戲曲的な獨創的な精力を有する彼が、一九一九年ファシスタの起るや逸速くムッソリーニと相結んだことは當然である「未來派」それは亦イタリア藝術史の重要な部分である。マルンヌの硝煙旺なるときミラーノのダルヴェルメ劇場にアウストリアの國旗

ル　フロンテスピチオ」に優秀な詩才を持つ意志と堅固な步地を築いた。だが私は「余は詩人にして破壞者、空想家にして懷疑論者、抒情的にしてシニック」と馬白せる時代の彼の眞の心に間は離れ難い影響を有する。

でも今のイタリアは建設の信仰の戰の行動のイタリアなんだ。「我イタリア」「イタリア文學史」最近彼から生れまた生れやうとしてゐる此の二つの書物を、私は好望を持つて待ち兼ねてゐる。彼が主宰した「ラヴォチエ」は文學史的に忘れられぬものまた「ラチエルベ」によつて再びマリネッティとの因緣を思ひ出す私はパーピニに健在を祈る者の一人である。

更に、イタリアの今日と共に明日を負ふ作家群の先頭に立つ人はボンテムペルリである。そして現代のイタリア文壇で最も特異な性格を示してゐるのも此人である。彼自ら語つていふ「自

「道理への意志」天野貞祐氏

小松攝郎

俳優としての立場から

中村彰

日本海を越える
就職半歳記 2

野澤進次

音樂性の不足を痛感

山口秋穗

執筆者紹介

京都アイス・スケート場

スケートへ

早朝　婦人　學生　サービス　子供サービス
平日　午前　日曜・祭日　月・水・金曜
早朝　十一時　十時　開場

河原町三條　電話本局六三二八番

階映　上映畫館

河原町三條

椿姫（廿八日まで）　ガルボの
素晴しき休日（五日まで）　ヘップバーンの
コンドル（十二日から）　アーサーの
大南風　地　歳末名畫集
舞踏會の手帖

廿日より
開北丸航海日記
海
漁民修練道場の青年、五十五噸の船を驅つて北洋へ――大毎映畫部提供
特輯
鯨吼ゆるアラスカ
オリヂナル・プリント
ワーナー製作提供

廿七日公開
娘々廟會
咽せ返る体臭！生々しい滿洲の匂ひ！
大陸風俗圖繪、本年ルポルタージュ映畫最高傑作！
秘境熱河の芥川光藏作品
三浦環獨唱、影繪音樂映畫
お蝶夫人の幻想
マダム・バタフライより
朝日映畫
未完成其他名曲集
シューベルトの故郷
東和商事
學生諸君が何時でも入場出來る
新京極大角
京洛映畫劇場

小山齒科醫院
東京齒科醫學士　小山正光
市電百萬遍電停西（電車通北側）
電話上五八二五番

創業一周年
▽詩誌「新生」協力者募集
▽北白川帝大界隈で一ばん感じのよい書店
▽ウスヰ書報發行
▽京都帝大・東京帝大新聞指定發賣
▽優秀映畫鑑賞券小賣
北白川・京大北門前
ウスヰ書房
詩誌「新生」編輯室
京大映畫研究會事務所
京大寫眞クラブ事務所

寫眞の御用は帝大裏門前佐伯へ

記念撮影・新聞寫眞は
上田寫眞場
熊野神社北
電話上一四九一番

滿洲へ
臺灣へ
沖繩へ
佛印へ
（案內書進呈）
大阪商船
京都船客案內所
四條通小路・電本一五一八八

京都日出新聞
朝夕刊八頁
一ケ月金八十錢
信用のある明るい新聞
躍進！京都の代表紙

中央公論
東京市麴町區丸ビル五八八區 中央公論社（振替東京三四番）
文化政策論・三木清
◆文化の配給と消費・今野武雄
◆新秩序國際法の基調・藤澤親雄
◆議會革新と議會局・妙法寺三郎
◆滿洲國と協和會・尾崎秀實
◆新經濟體制と新産業の移植・土屋喬雄
◆米國軍擴インフレの根據・飯田淸三
◆大統領選擧後の米極東策・聽濤克巳
動くバルカンを見て（特輯）
イラク・隈部種樹
イラン・中山祥一
ユーゴー ハンガリ・井上庚二郎
ギリシヤ トルコ・武富敏彦
スペイン・横山正幸
日ソ經濟提携の可能性（淺田滿喜雄）
歐洲大戰とコミンテルン（山本愛三郎）
現代醫學の改新・澤井哲二
耶蘇會士日本通信（科學史話）・矢島祐利
極東に於ける白人の將來・P・バック
ビルマルート爆擊記・間直顯
ラヂオ放送の新體制・宮原誠一
農村婦人と新體制・住井すゑ子
國民共同住宅の私案・圖師嘉彦
新劇再生の問題……長田秀雄
流木…長谷川時雨
國民生活と産業再編成（太田正孝 帆足計 對談）
文學の原則（文藝時評）・窪川鶴次郎
▼松岡映丘（本朝畫人傳）・村松梢風
▼革新政治家森恪・山浦貫一
▼晩年の渡邊崋山・杉浦冷石
▼文學の三十年・宇野浩二
岸田文化部長に寄す・高村光太郎
（小說）ふるさと　富澤有爲男
（小說）山嶺　寒川光太郎
詩（革新心平・高橋新吉）　句（大野林火・池內友次郎）　歌（岡山巖・村野次郎）　俳色口畫・岡田平八郎
岸田國士・島木健作對談
●十二月號・定價壹圓（送料三・五）

◇二千六百年特輯◇
近代日本文化の反省
―思潮をとほして觀る―

經濟思想の回顧
外來思想はまだ消化しきらない

堀江保藏

（一）

幕末・明治初年の先覺者は、我國と歐米諸國との文化の發展段階が餘りにも違つてゐることを悟つて、この差違を如何に縮小すべきに思を致し、先づ文明開化を唱へた。之は政治・社會・經濟・日常生活等あらゆる方面に亘つて、歐米文化を攝取せんとするものであつて、政府の當路者も多くその熱心な鼓吹者であり、明治十六七年には所謂鹿鳴館時代をも現出した。文明開化を說いた書物の數は多數であるが、福澤諭吉の「學問のすゝめ」、加藤弘之の「鄰草」「交易問答」、加藤祐一の「交易心得草」「開化進步之目途」小川爲治の「開化問答」等は特に注意すべきものであらう。

文明開化論は形の上では歐化主義であり、思想に於ては歐米思想の輸入紹介であつたが、之には大體獨逸流の國權思想、佛蘭西流の自由民權思想、英國流の功利主義思想、亞米利加流の基督教的博愛思想、この四つの系統があつた。そのうち經濟學に最も關係の深かつたのは第三の系統の思想であつて、即ちその紹介者は、政治的には中正の立場を守り、日本の急務は社會的經濟的發展にありと考へ、從つて經濟學はこの立場の人々によつて最も多く紹介せられたのである。

明治後日清戰爭頃までの我國の經濟學は、大體に於て輸入經濟學であつた。それは上述の如く經濟學自身が文明開化論の一翼として啓蒙的役割を演じなければならなかつたこと、我國民經濟自體が歐米の經濟制度の模倣によつて發展しなければならなかつたこと等の事情による。この事は我國に限らず所謂後進國に於ける共通の現象であるが、我國の場合には所謂先進國が多數に上つたゝめ凡ゆる國から凡ゆる種類の經濟學が短期間に輸入されたといふ特色がある。

併し乍らその間に自ら系統と順序があつた。最も多く輸入せられたのは英國流の自由主義經濟學であつて、スミス、マルサス、ミル等の古典學派より、フォーセット、ウエーランド等のマンチエスター學派に及び、自由放任の經濟論が主張せられた、之と並んで輸入せられたのはバイルズ、ケアリー、リスト等の保護主義經濟學である。保護主義といつても根本に於ては自由主義であつて、後進國が先進國に伍するための手段として政治の經濟に對する保護干渉を認め特に幼稚産業の保護助成を要請する主張に外ならない。が何れにしても自由放任か保護干渉かは明治十年代以後盛んに論議せられたものであつて、前者を代表する津田眞道・福澤諭吉・田口卯吉・栗谷峯太郎等は、後者を代表する若山儀一・犬養毅・大島貞益等と對抗し、田口と犬養とが夫々「東京經濟雜誌」「東海經濟新報」に立據つて論爭を續けたことは餘りにも有名である。

鹿鳴館時代に絕頂に達した歐化主義は漸くその行過ぎを反省せられ、之を是正する意味の國粹主義が擡頭した。明治二十一年に創立せられた谷干城・三宅雪嶺等の政敎社がその中心であつた。それは前に述べた獨逸流の國權思想とも一脈の聯關があるが、更に二十年前後からの獨逸歷史派經濟學の輸入にも通ずるところがあつた。歷史派經濟學としてはロッシャー、ワグネル等が最も多く紹介せられ殊に前者が我國產業組合の生みの親である平田東助等によつて紹介せられてゐることは興味深い。之よりする日本產業史觀が諸方面から述べられてゐる。と共に澀澤榮一・富田鐵之助・横井時冬等によつて、殖産興業の立場から、我國經濟への獨自の反省といふ意味から、注意すべき事柄であらう。

（二）

日清戰爭を劃期として、我國民經濟が本格的に資本主義化し、之に伴ふ諸種の問題を持つやうになつたに應じて、經濟學も次第に輸入經濟學の時期を脫したわけではないが、我國の情勢に應じて加工せられるに至つた點で、日清戰爭以後世界大戰迄を我國經濟學の建設時代といふことが出來よう。此期に於ては先づ歷史派經濟學が大體に於て消化せられた此點で述べべからざるは金井延・福田德三・和田垣謙三等であるが、特に福田の「國民經濟原論」「經濟學講義」は一つの記念塔であり、歷史派の方法を日本經濟史研究に取入れた內田銀藏も忘れてはならない人である。歷史派の紹介者は同時に、方法論に於て之と對立する澳太利派理論經濟學をも取入れた。取入れられたのはクラーク、フイッシャー、ジェボンズ等であり、取入れた人には福田德三の外に田島錦治・氣賀勘重・津村秀松・河上肇・小泉信三等が擧げられる。而して多くの場合歷史派と澳太利派とは加工折衷せられてゐるのが常である。

前期に於ける自由民權思想は、その運動が國會の開設によつて一應使命を果したと同時に、一部社會主義思想に發展する傾向があつたが、本期に入つて安部磯雄・片山潛・中江兆民・西川光次郎・幸德秋水・堺利彥・石川三四郎等の有力なる論客を得て、盛んなる社會主義運動となつた。それは日清戰爭後勞働問題が俄かに發展し貧富懸隔の問題が世人の注意を喚起したのに相應じたものである。尤も勞働組合運動が起して亞米利加派の勞資協調を標榜したゝめ、社會主義思想との間には可成りの隔りがあつた。

かゝる事情に關聯して諸種の經濟政策論が現れたが、特筆すべきは社會政策學會の創立―明治三十三年―並にその活動である。その現實的根據は上記の社會問題の勃興であり、思想的には自由放任の經濟思想並に社會主義思想に對立した。即ち「現在の私有的經濟組織を維持し其範圍內に於て個人の活動と國家の權力とに依て階級の軋轢を防ぎ、社會の調和を期す」といふのがその方針であり、初期の主なる會員は金井延・桑田熊藏・田島錦治・小野塚喜平次・福田德三・神戶正雄・塩澤昌貞・高野岩三郎・矢作榮藏・山崎覺次郎・河津暹・高田早苗太郎の諸氏であつて、同會が獨逸の社會政策學會に則つたものであること並に思想傾向が歷史派經濟學の流れを汲むものであることが一見して知られる「社會政策學會論叢」（十五冊）はその記念塔であり、同會が工場法の制定に與つて力ありしことは記憶に新たなるところであらう。

（三）

世界大戰を經てわが國民經濟は略々世界的水準に到達し、同時に世界經濟の一環として重要地位を占めるやうになつた。これと共にわが國の經濟上の諸問題も世界的特質を持つことになり、これに應じて經濟學も分化發展しはじめ、その發展期に到達した。主なる經濟問題乃至經濟論を擧ぐれば（一）大戰後俄かに活潑となつた社會運動に結びついて社會主義經濟學が頗る盛んになつた。アナーキズムよりマルキシズムへの轉換、その日本への適用、ならびにこれに對する活潑なる理論鬪爭等。（二）大正九年の恐慌に始まり、昭和二年の金融恐慌を經て昭和五六年にいたり深刻化した全國的不況と實證的景氣論の發展。（三）財閥の膨脹、獨占資本主義の生長と獨占理論の發展。（四）統制經濟乃至ブロック經濟の擡頭と統制經濟論の展開。（五）日本主義的國民主義經濟學の提唱。（六）經濟史のみならず經濟學史の分野において經濟史特に日本經濟史の研究が頗る旺盛となつたこと、等。

要するにあらゆる經濟思想・經濟論が一つの坩堝の中に投込まれ、夫々の立場においてわが國民經濟の行くべき方途を見出さんとしたのが現時に至る情勢である。それらはしかしまだ十分に融合つてゐない。それらを如何に融合し、如何に獨自の經濟學體系を打立てるか、それが今日の經濟學の最大の課題である。

（四）

現在最も叫ばれてゐる國民主義經濟思想に對比するならば、明治初年以來輸入せられ消化せられた經濟思想は、學派の如何を問はず、また社會主義思想をも含めて、個人主義をその基調としてゐた。殊に最初に輸入せられた英國流の功利主義思想はその最たるものであつた。例へば福澤諭吉は「學問のすゝめ」の中で「余が立論の趣旨は人をして私利を營み、自ら其の業を勤めしむる……」と說いてゐる。

けの役目を果すべき經濟思想がなかつた。しかもかゝる思想が取入れらるべきわが國獨自の地盤があつた。それは前の德川時代に、個人的創意が封建的桎梏に制約せられてゐて、絕えずその捌け口を求めてゐたことである。從來に「御無理御尤も」といふ言葉があるがこれは封建時代には殊によく妥當する言葉であつた。御無理であらうが御尤もと首を縦に振らねば身の置き所を異にしてしまふ。中にはそれを批判の上で反抗運動をしたものもあるが、普通には首を縦に振るのが智であつて、そこには何時か何處かへ自分を主張しようといふ意慾が醸成せられつゝあつた。そこへ持つて來て明治維新の成就とゝもに西洋流の個人主義思想が政治・經濟その他各方面に取入れられることになつた。官民共にこの思想に、待つてゐたやうに飛付いて行つたのは當然である。

當時西洋においては、極端な自由放任主義の思想に對しては既に反省が加へられ、放任主義の經濟組織から生ずる弊害に對しては社會主義思想が現はれ、またドイツでは歷史派によつて一種の國民主義經濟學が唱へられてゐた。これらの思想も順次わが國に取入れられたこと前述の如くであるが、茲で注意すべきは、これらの主張の重要な點が富の分配論であつたといふことである。社會的富の分配を公平に行ふべきか、如何なる事情なるが故に勞働者は富を全收すべきであるか等。

國民的富の生產、これは最近にいたるまで、寧ろ政治の問題であつて、經濟學の主要課題ではなかつた。生產技術の問題の如きはたとひ取扱はれたにしても經濟論のほんの片隅に居を與へられるに過ぎなかつた。しかしこれも强ち經濟學の罪とはいへない。何故ならば最近にいたるまでわが國民經濟は研究よりも早い速度で發展しつゝあつたからであり、また先進國の經濟學が分配問題の解決を主要課題としてゐたからである。

しかし生產においても殆んど先進國を凌駕し、寧ろ獨自のものを持たねばならぬやうになつた今日、經濟學が最早や從來の如き個人主義的分配論に留ることを許されないのは勿論であり、これから雄飛する機運も各方面に現はれてゐる次第である。

政治思想における憲法的反省
西洋思潮自體が亦國體的反省を促した

田畑忍

○

近代的日本は德川封建鎖國時代の矛盾混沌の裡にすでに國學者、儒者及び志士の鎖國論及び攘夷運動として胎動してゐたものである。然も、攘夷論とその運動はやがて尊王攘夷論及び其運動として、かつ倒幕論及びその運動として統一せられたのであつて、京都における國士横議はそれによつて基礎づけられたものたるにほかならない。思ふに尊王倒幕は頗るよい。然し攘夷は對外政策として必ずしも容易ではなかつた。殊に攘夷鎖國の心なき妄動は、日本の立場を極めて不利に導き我が國はのち長くそのため惱まされざるを得なかつたのである。もとより識者と雖も夷と戰つて攘夷の不可なる所以を知らないわけではなかつた。けれども、討幕の理由としてなほ攘夷を唱へ續けざるを得ない矛盾を藏してゐたのである。然し攘夷論の勢力は幕府三百年の鎖國主義の一反映にほかならざるものであり從つてその責任は幕府のかゝる政策にあつたといふべきであらう。

然しながら、その鎖國たるや、和蘭人との交易を許容したる不完全鎖國であつた。のみならず英明なる八代將軍吉宗は洋書取締のため青木昆陽、野呂元丈をして蘭學を學ばしめたのであるが、これによつて、杉田玄白、大槻磐水、桂川甫周、高野長英、渡邊華山等の蘭學者を輩出するにいたつた。かくて我が國の文化は辛うじて世界から完全に孤立することはなかつたのであるが、もつとも、蘭學は天文學、醫學等の自然科學の範圍にかぎられてゐた。それ故、幕末にいたつて、外交文書の飜譯は天文學者がこれに當り、兵書は醫者がこれを飜譯しなければならなかつたのである。然もまた政治にかんする西洋の知識も不完全であり、かくて蘭學者たちの間から和蘭人に傳へられてゐたのであり、かくて開國思想が自然に胚胎せざるを得なかつた。就中、幕府の蕃書取調所が其の中心をなしてゐたのであり、その意味で開國と開國思想が幕府的であつたことは遂に止むを得ない。然るに攘夷夢未だ醒めざる幕府自體と雖も開國政策を取らざるを得ざるにいたり、漢學佛學獨學も亦加速度的に始められることゝなり英米佛の來るに及んでは鎖國の論の眞只中にあつて洋學に精進し得たわけであるが、彼等は開國によつて西洋的知識を利用するのでなければ日本の國家的獨立を保ち得ないといふ確信を持つたのである。加藤弘之の「鄰草」「交易問答」福澤諭吉の「唐人往來」「西洋事情」等はかゝる意氣と信念に於て書かれたるものであつた。彼等洋學者たちはかくて當時に於ては殆んど唯一の文明開國論者と名づけらるべきものであつた。のみならず、その環境上寧ろ幕府的であつたにせよ、然かも本質的には尊王的且つ愛國的でなかつたわけではないであらう。

ただ、幕府の存在とその取り來りし不完全鎖國主義が、一方において尊王思想を不自然に攘夷思想と結合せしめ、他方開國思想に歪曲せしめるの要因的結果を惹起せしめたるにすぎないのである。

○

然れば、正に對立した尊王攘夷思想と文明開國思想とは、倒幕によつて成就したる明治維新によつて、新しき開國の理念と存在になつて止揚されることを必然の歸趨點としたわけである。換言すれば、それは國學者の復古思想と洋學者の近代的文明移入思想との結びつきであつたと言つてもよい。しかも攘夷思想から一轉した勢ひの赴くところ、極端なる歐化主義へと突進したのである。福澤諭吉の「西洋事情」はそれに與つて力となつたのであるが、またその「英國議事院談」「學問のすゝめ」「文明論之槪略」及び加藤弘之の「立憲政體略」「眞政大意」「國體新論」等の論著は、津田眞道、神田孝平、西周、中村敬宇等何れも之、服部德等の譯業とゝもに、幕府的な封建制度とその思想を破壞して新しい政治體制を建設するための有力なる武器となつたのである。而して、それは自然法說に立脚した自由民權論即ち天賦人權論を骨子とするものにほかならぬ。

福澤は「天は人の上に人を造らず人の下に人を造らずと云へり」云々と喝破し、加藤は更に一層極端に斯かる天賦人權論を說述したのであるが「國體新論」ではブルンチュリ・ビーデルマン等の影響を受けて、實證を加味するにいたつた。かくてドイツ學的な傾向が顯著となるにいたり、イギリス學の福澤と好き對照をなすにいたつた。然るに、福澤の民權論も亦國權論を內在するものであつて「文明論之槪略」においてそれは可成り著るしくなつた。また加藤の實證的思想は政府の國權化とともに次第に國權的になつて行き、歐化論をその方法論とするにいたつた。即ち明治七年板垣退助等の民選議院設立建白書の出でし際、尚早論を唱へて反撥したのがその始まりとして、彼は天賦人權論を放棄してこれと闘ふにいたつたのである。かくてのちに「人權新說」と「強者の權利の競爭」を著した時、族父國家思想が出來上つたわけである。それは數々の矛盾を含みつゝも然も國家を存在の原型と見る國體觀に立つものなることは疑ひない。福澤も天賦人權說から次第に離脫するにいたつたけれども、その國權論は社會に着眼してナショナリチーを中軸としこれを國體であるとする特異の論であつて、その國權論と民約論は勿論、國家論も官民調和論も尊王論も、ナショナリチー中心の文明論によつて統合されてゐるのである。福澤と加藤は、かくの如き對立を呈示しつゝ、然かも日本の國家的獨立といふ目的に向つて、同様に建設的役割を果し得たる點では軌を一にしてゐるのである。それは一つには憲法制定、國會開設の思想的準備をなしたといふことに於ても亦熟知せられるのである。かくて、ドイツ學者としては加藤のほかに平田東助がブルンチュリ・ゲルバーの國法學を紹介し、福澤の陣營に於ては小野梓が「國憲汎論」を著し矢野文雄が「代議政體論」「國會論」を著し、田口卯吉、沼間守一等の論客の思想的且つ啓蒙的活動を見たのであつた。

これに對し、板垣退助を中心として、ルソーに傾倒せしフランス學の中江兆民は東洋自由新聞に據つて正理を說き且つ「平民の目ざまし」なる論著において市民層の政治的意義を明確にした、また「一局議院論」「天賦人權辨」の著者植木枝盛は道理を基調として政治否定の論を倒て、更に馬場辰猪、三宅虎太が奮闘したのである。が、彼等は加藤、福澤が天賦人權說を棄て去つてのちにおいてもこれを牙城として最も急進的な自由民權論を唱へて止まなかつたのである。即ち、普通選擧主義に基く一院政治を主張して、ドイツ學派及びイギリス學派の漸進主義的立場に抗爭したのである。而して、これら三派の思想系統の鼎立は帝政黨改進黨自由黨の三政黨運動と不可分の關係に置かれてゐたものであつた。然しながら、近代的市民の基本的權利を主張したる點は、三派ともに異るところはなかつた。のみならず、その論爭のうちに、日本の近代的政治思想はその深さと豐かさとを獲得したわけである。人はこの時代を啓蒙時代と呼ぶのである。

ともだち（聖紀展出品作品）山本日子士良

○

而して疾風怒濤は明治廿二年帝國憲法の欽定によつて春風駘蕩に歸するにいたつたのであるが、この憲法制定といふ觀點からすれば、フランス學的民權論はもちろん、加藤、福澤の政治思想と雖も、その直接的な基盤たる事を得たるものではなかつた。然し、私擬憲法等の提案などにおいても見られるやうに、その建設的役割を評價するに間接に其の思想的用意となつたことは既述の如く沒すべからざるものがある。かくて、これら諸々の政治思想に於いて、伊藤博文、井上毅、伊東巳代治「ボルク政治論略」の譯者金子堅太郎による憲法草案の起草が、國體的には日本主義的な傳統に於て、また政體的にはグナイスト、シュタイン、モッセ、レスレル等のドイツ的な及びピゴット、ボアソナード等各國學者の憲法思潮を參考資料として、遂行されたのである。然かれば維新以來のあらゆる外來的政治思想は日本固有の國體的思想によつて吸收消化せられるところとなり、かゝる憲法思想として集大成し結集したわけである。

かやうにして帝國憲法の制定以來、それは憲法學並の誕生となつて現れ、政治論は憲法論のうちに全く解消したるかに見へた。穗積八束、有賀長雄等の憲法解釋論及び國法學が中でも最も有力となしたのであるが、爾來この領域に於てボダン及びイエリネックの影響下にはまり、やがて上杉、美濃部兩博士の對立時代を經過して佐々木、森口兩博士にいたつて止揚せられ學的に完成を遂げたのである。

かくて、この安定期に入つて、政治論は憲法學に依存すると同時に漸やく政治學として體系化されるにいたつたのでもあることが注意せられねばならぬ。例へば、高田早苗、小野塚喜平次、稻田周之助、佐藤丑次郎等の諸博士の政治學體系は、かやうにして結實したものである。殊に小野塚博士の「政治學大綱」は最も體系的なるものとして評價せられるのである。加之、それらのものは多く加藤弘之の流を汲むドイツ學的な國家的政治學とも言ふべきものであり、斯かるものが明治時代に於て長く我が政治學界の主潮をなすにいたつたのである。而して、それは恰も我が國が日清、日露の役に於て大陸を收し、經濟的にも亦躍進期にあつた時代であつたことを想はねばならない。

然し勿論この時代に於ても論壇的な政治學の外に政治論がなかつたわけではない。即ち「近時政論考」及び「原政」の著者陸羯南、「日本人」を標げたる三宅雪嶺等の日本主義的政治論及び田中智學の日蓮宗的信仰に根ざした國體學等は、斯かるものの一例であるといひ得られるであらう。

○

然るに、大正年代に及んで、我が近代的社會は漸やくその內在的矛盾を露呈するにいたり、かくて最初は勞働運動農村運動の社會運動として、のちには政治運動、政黨運動として、政黨內閣の時代に突き進んだのであつた。而して、かやうな社會的事態に相應するかの如く、殊に歐州大戰後、種々の外來的政治思想が新しく我が國に輸入せられるにいたつた。例へば「政治の社會的基礎」の著者大山郁夫氏によつてラッツェンホーファー、グンプロヴィッツの社會學的及び社會學的國家論が紹介せられ、政治學界はとみに活氣づくにいたつた。而してそれは社會群を政治學の中心問題として擴張するものであつた。或る意味で大山氏は黎明的な吉野博士とともにデモクラシー論も亦このに於て精彩を放つたものであり、それは普選法と稱せられる大正十三年の衆議院議員選擧法の改正立法と無關係に考へることができない。また高田保馬博士及び中島重氏等によるラスキ、マッキーバー、コール、ホッブハウス、テンニース等の研究は所謂多元的國家論を華の如くに開花させ、ゲゼルシャフトに對するゲマインシャフト的國家の優位の思想を推しすゝめた。更にカント派の紹介は遂にケルゼンの非政治的純粹法學的國家思想を一時的にではあるが壓倒的ならしめたのである。

而して、流行の如くに現れては消へたこれらの新政治思想は、國體を沒却して、國家の代りに階級性を强調したり國家の代りに集團又はせいぜい政治社會を置き代へんとする類は國家權威の風潮を生じ、結局は大なり小なり或ひは意識するとせざるとに拘らず、國法からの自由を欲求するものであつたと言はねばならない。勿論それが國家としての社會的政治論への反動であつたとしても、その政治論は事實と離れない。然し、それらのものは社會運動とは無關係なものではなかつた。然るに、大山氏がのちに轉身した Marxismus の政治論及びその他或種の社會思想は當然に斯かる性格を內含せざるを得ないものであつたが、而してその頃ドイツ的ロシア的フランス的等々のそうした政治思潮が日本を席捲したのであつた。それらのもの、うちには憲法の軌を越へて遙かに行き過ぎたものも生ずるにいたつた。かくて國体的反省が加へられねばならなかつたのである。また、かゝる間に、ファッシズムとナチスムの思想が紹介されて來た。而してシュミットやケルロイターなどの政治學優位主義がケルゼンに代つて喧傳せられるにいたつたのであるが、これらの傾向にあるものも亦反憲法的な行き過ぎの誤謬を鼓舞することゝなつたのである。

然しそれに拘らずそれら一切の新なる外來思想は、日本固有の國家思想と國體と資本主義の相貌を示唆し且つ資本主義營利主義の變革乃至是正を促し、以て民族的革新論を醞釀せしめるのよすがとなつた事は明らかであらう。

かくて、幕末に酷似した世相を現出しつゝ、我が國は滿洲事變を迎へてとにかくこれを解決した。が然し更に幾何もなく支那事變に際會し、今やこの未曾有の大戰をして有終の美にいたらしめねばならぬ秋となつたのである。かくて、さきに八紘一宇を理想として東亞新秩序の建設が聲明せられ、再び國內新秩序のために新體制の整備が近衞公の熱意によつて其の巨歩を進めるにいたつた。即ち、あらゆる國民があらゆる愛國の論議を大政翼賛、臣道實踐の旗下に日本的な協力の誓願をする事となつたのである。

それは恰かも幕末に於ける尊王攘夷の國論を想起せしめ、また帝國憲法制定の時を回想せしめるのである。然し、尊王開國はほんとうは尊王倒幕開國であらねばならなかつたのであるが、大政翼賛、臣道實踐はさやうな矛盾を含むべきでないと考へ、更により高き方の標的であると言つてもよいであらう。それは對立的でなく寧ろ綜合的であり、かくて皇化の方向を指示するものであり且つそれの示す軌範をすゝめるのであらねばならぬものである。また然かあらねばならぬものである。かくて、新体制は一個のものに繋つて、また一個の政治思想に、帝國憲法的反省を促すものであることが痛論せられるのである。

故に換言すれば、全てのものが帝國憲法に立脚し、帝國憲法に對する無理解乃至は不理解を反省して、且つ帝國憲法に深く歸依しなければならぬのである。而してそこから帝國の政治思想の新たなる出發をしなければならぬであらう。

河出書房 豫約
東京市日本橋區通三丁目 振替口座東京一〇八〇二番 電話日本橋二七七〇・二七四八

監修 國學院大學教授 文學博士 武田祐吉
謹解 三浦藤作

萬戸必備・萬民必讀

謹解 歷代詔勅全集 全八卷

紀元二千六百年の佳秋を迎へ、曠古の大業に邁進しつゝある今日、國史に一貫する國體の本義に徹し、皇道精神の眞諦を更に一層深く體得する事は刻下の喫緊事である。茲に　御歷代の詔勅　を謹輯謹解し以て萬民が、　聖旨奉體奉誦の資となすべく、本書房は鋭意鏤刻之が實現に傾到し稿を重ねること數年漸く本集を世に送り得るに至つた。萬戸備ふ可く、萬民讀むべき不滅の聖訓により世界的大國民たる信念と氣魄が强化されることを望んでやまない次第である。

本全集は、第一卷より第七卷までに「天壤無窮の神勅」をはじめ、紀元二千六百年の詔勅に至るまで、御歷代の詔勅を謹抄謹解し、その餘は悉く第八卷に謹載し、外に御宸翰・御願文・御製の一部をも併せ謹載したので、謹解の數のみにても一千數百詔の多きに上り、その內容に於いて、古今絕無のものたることを信ずる。

第一回配本 第一卷 十一月二十日出來

內容見本進呈

豫約募集
卷數 全八卷
刊行 十一月第一卷を刊行、以下毎月一册宛刊行の豫定。
體裁 菊判上製函入・典雅裝釘・堅牢製本・毎卷平均三七〇頁
申込 申込金不要。豫約者に限り頒布
締切 昭和十六年一月三十一日
會費 毎月拂 二圓八十錢 送料二十二錢

紀元二千六百年記念出版

世界歷史全集 全十卷

監修 東京帝大名譽教授 文學博士 辻善之助 / 東京帝國大學教授 今井登志喜 / 東京帝大教授 文學博士 和田清

內容見本進呈 豫約募集

現下の非常時局に臨んで不拔の世界觀を持し日本の世界史的使命を遂行するには歷史を全體の相の下に、生ける現實の立場から把握せねばならぬ。在來の歷史書が總べて殆ど日本史を世界史から分離し個別的敍述を羅列するに止まるを遺憾とし、本書房は祖國の歷史的生命の自覺に於いて日本史、西洋史、東洋史を統一的に認識すべき眞の「世界歷史」の發刊を企て歷史學界の權威精銳の眞摯なる協同によつて本集全十卷を世に送るに至つた。時代の切實なる要求に應へる劃期的事業として各方面の絕大なる支援を望んでやまない。

刊行規定
卷數 全十卷
刊行 十一月より毎月一册宛刊行。
體裁 菊判九ポイント組。每卷平均三八〇頁クロース裝上製函入。
申込 申込金不要
締切 昭和十六年一月三十一日
定價 毎月拂 三圓三十錢 送料三十三錢

第一回配本 第一卷 日本文化の生成 十一月二十日出來
內容
日本史序說 辻善之助
日本文化の特質について 川崎庸之
日本國家の成立と古代文化 遠藤元男・渡邊保
上代社會の政治と宗教と藝術 遠藤元男
中世封建社會の發達と思想文化 渡邊保

全十卷
第一卷 日本文化の生成　第二卷 東亞文化の成立　第三卷 西洋精神の源流　第四卷 近代日本の黎明　第五卷 東亞諸民族の盛衰　第六卷 ヨーロッパ市民精神　第七卷 ヨーロッパ帝國主義の成立　第八卷 歐米の帝國主義とアジヤ　第九卷 國際主義時代　第十卷 世界史の現在

疲労恢復に
强力ビタミンB劑
オリザニン（登錄商標）
ビタミンB₁は乳酸の生成を抑制すると共に過剩の乳酸を分解して疲勞の防止恢復に顯著な奏效を見ることは實驗醫家の實證するところである
オリザニンはビタミンB劑の學界に於ける標準品としてその最高力價を保持する點に於てビタミンBを必要とする總ゆる場合に推奬せらる
三共 SANKYO
東京・三共株式會社
005.A.005

醫學博士 伊佐早修治
皮膚科・性病科
佛光寺通寺町東入ル 電話下(5)三五三七番

文房具・事務用品 長谷日進堂
東山線熊野電停北 電話上一二九五番

寫眞の事なら何でもいつでも是非御利用下さい
技術京都一 上田寫眞器店
市電熊野神社北入 電話上(3)三四一六番

噛む力から湧く力
■咀嚼力が强くなれば顎骨の發達がよくなつて容貌が整ふ。
■消化がよくなつて、榮養の吸收が促進される。
■齒齦の抵抗が强くなる。
更に――
ライオン齒磨の藥効と吸着力が加はると齲齒、齒槽膿漏、齒齦炎、其他凡ゆる齒疾の原因が除去されます

ライオン齒磨
15―155

模倣より完成へ

太宰施門

自然科學の發達

國防を重要な契機として

鳥井博郎

奔流

鹿木英郎

秋風

學内風景

新刊紹介

神道文化叢書
全拾貳卷・菊版・二千六百頁
神道返論神道と民俗
神道と祭祀神道と文學
神道と教育神道と國家
神道と國學神道と政治
神道と神社神道と社會經濟
神道と國史神道と考古學
京都市烏丸四條南　電話下三三〇〇番

日本文化研究者の一大金字塔
中古より近世に至る歌學資料の集大成
第一卷内容
推薦の諸名家（歌壇）
日本歌學大系
藤原定家全歌集
豫約募集　全十卷
日本郵船　東亞海運　京都代理店
船客切符發賣所
京都烏丸四條南　電話下三三〇〇番
文部省推薦映畫!!
大日向村
!!定次開公日七十二月一十
キネマ倶楽部
八代列聖御集
崇德天皇
文明社
生活術
アンドレ・モロア著　隅田久三郎譯
伊藤書店
合成ゴム
新刊
支那事變勃發以來特にゴム業界の原料問題は焦眉の急を告げ、政府も法律を定めて斯工業の助成促進を圖つてゐる。かゝる狀勢に鑑み、本邦獨自の優良なる合成ゴム製造法を開拓すべきであるとの見解より、著者は玆に本書を著し、斯界新業の指導に當つた。尚引用參考文獻を各項毎に掲げて讀者の便宜を圖つてゐる。
白井直眼鏡店
御指定所
京都帝大病院正門前
秋へ鍛に！よ
深よ愈秋の洛京
眼鏡
眼鏡專門
正確廉價
眼鏡川吉店
前平眼鏡醫學大國帝都京・店本
前平眼鏡醫學大國帝都京・店支
石田眼科
東山藥局
熊野神社停留所前
電話上三一四〇番
新業・調劑・醫科用品
社會式株善丸
東京・日本橋通
大阪・神戸・京都・名古屋・福岡・仙臺・長崎・札幌・新京・奉天
（所行發）
（著玉第京東發）
（酒目）・ルビ丸・田稻平・田三・田神一京東
東京新聞御用達
上田寫眞塲
電話一九四一（3）上野